

Mitsui Fudosan

三井不動産 Story

緑の意味を知ると
街づくりは変わる。

緑のなかを風が楽しそうに走る。

このパークシティ浜田山という街が生まれるとき、
開発チームは休日返上してイギリスへ渡った。

そこで見た英国式庭園は彼らの街づくりの意識を一変させた。
人生観を変えた。

その庭園の入口に立つと、まず樹木がその視線を歓迎する。
そして、その視線の先に銅像があることに気がつく。

銅像は後ろを向いて何かを指差している。
その指の先を目で追うと、美しい空が

これしかないという形が広がっていく。
その美しさは心を奪う。奪われた心は幸せに包まれる。

「視線をつくることで空間はとこまでも美しくなれる」
その発見は大きかった。

道を歩くときに見える空の大きさをどうつくるか。

部屋に向かう廊下から見える紅葉は時間を止められるか。
歴史と未来の美しい交差をどう表現できるか。

この樹をどの角度で植えると未来を柔らかく包めるだろうか。
街とは永遠に完成しないものだ。

時を重ねていくたびに美しくなっていくものにした。

あの庭園が教えてくれたものをチームは必死に追いかけた。

そして、昔からこの土地で愛されてきた樹木を

丁寧に丁寧に移植することで

他にはない新しい季節を重ねて育つ街をつくりだした。

いい街には、物語がある。

